

キャリア教育だより 第5号

発行元：相模原市教育委員会キャリア教育推進チーム / 令和5年10月発行

中央中学校区の小中一貫の日の取組をご紹介します！

中央中学校区(中央中学校、中央小学校、富士見小学校)では、6月23日(金)に第1回小中一貫の日、8月28日(月)に第2回小中一貫の日が開催されました。第1回は授業参観や協議会をとおして、児童生徒の情報共有や「めざす子ども像」の確認や具体的な手立てなどについて協議しました。第2回は法政大学の児美川教授をお招きして、「小・中9年間で取り組むキャリア教育のあり方」についてご講演いただき、中学校区の先生方が一緒に学ぶ機会となりました。今回は、中央中学校区の小中一貫の日の取組についてご紹介します。

第1回小中一貫の日

中央中学校区のめざす子ども像

「学びに向かい、成長を実感し、より良い自分を創りあげる子ども」

子どもたちの実態を共有し、めざす子ども像に向かうための具体的な手立てについて協議しました。「リフレーミング」つまり「褒めること」を重視し、子どもたちの自己効力感が高まるために、先生が子どもたちにどのような関わりができるかをテーマに座談会形式で活発に話し合いが行われました。

いつも子どもにどんな言葉をかけていますか？



自己効力感とは何ですか？

小中の先生方が3人のグループを作り、座談会形式で協議が行われました。



どのように子どもをほめますか？



子どもたちへの前向きな関わり方について中学校区の先生方、校長先生方で共有しました。

第2回小中一貫の日

法政大学の児美川教授より「小・中9年間で取り組むキャリア教育のあり方」についてご講演いただきました。児美川教授がご指導されている大学生の実情を例に、変化の著しい社会において将来への見通しがもてにくい今だからこそキャリア教育の出番であるというお言葉があり、9年間を見通す教育の重要性についてもお話いただきました。また、キャリア・パスポートを活用し、振り返りと見通しの繰り返しが大切なことも改めて学ぶことができました。



キャリア教育は、イベントのように1回きりで行うものではなく、日々の教育活動の中で土台を作り、一つ一つ積み上げていくことが大切です。



中学校区のめざす子ども像を意識し、日々の教育活動の中で子どもの姿を意図的に褒め、認めることで、子どもの自己肯定感の高まりにつながります。ぜひ参考にしてください。